

がまかつ デッキステージ マルイカ

●扱いやすさを重視したマルイカ専用モデル。軽量、ハイバランス、高感度でわずかな触りもキャッチできる感受性を備えつつ、しっかりと乗り感も得られる調子設定となっている。スパイラルガイドセッティング。グリップジョイントの2本継ぎ。3月発売予定



▲ブルーのワンポイントがこの竿の特徴

★オモリ40号でのシャクリ上げ



model:160

model:155



▲下ツノに乗ることが多かった



▲マイクロサイズの乗りもキャッチ



▲160にこれまでにない重量感
▼正体はコウイカの仲間だった



次は160である。穂先の素材はカーボンに変わり、深場にも対応するパワーモデルでありながら同じく穂先も長め、穂持のパワーも軟らかめに仕上げている。「ゼロテンから宙釣りまで使えるオールマイティ仕様です。オモリ

トップシーズンは間近。コスバに優れた価格でもあるので、これからマルイカを始めたい方、マルイカ釣りに行き詰まっている方も、一度手に取ってみてはいかがだろうか。

「潮の流れか水温が変われば突然スイッチが入る可能性があります」と中村さんは言う。

「シーファンクに比べて穂先を長く取っているのが、ゼロテンをキープしやすいし、ウネリに対しての追従性もあります」と中村さん。即合わせというより、少し間を置いて乗せ掛け、抱かせる余裕も持たせてあるという。乗り感も分かるように、穂持のパワーをややマイルドに仕上げている。

マルイカシーズンに向けて がまかつニューロッド登場

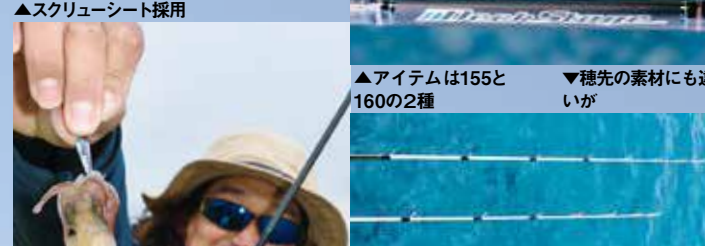
★2022年版のマルイカロッド一番乗り。監修した中村勇生さんが実釣で初披露(写真は155、オモリ40号を使用)



中村勇生が太鼓判!! デッキステージマルイカの実力



▲スクリーシート採用



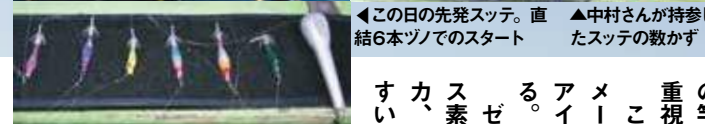
▲アイテムは155と160の2種

▼穂先の素材にも違いが



◀初期はこのサイズがメインとなる

▶船中1杯目となる15センチ級をキャッチ



◀この日の先発スッテ。直結6本ツノでのスタート

▲中村さんが持参したスッテの数かず



●昨年12月、いち早くスタートしたマルイカだが、年が明けてからは一服状態。例年この時期にはよくあること、それならとトップシーズンに向けての準備と情報収集が優先と画策するのがマルイカファン。そんな方々のための耳寄り情報、がまかつからマルイカロッドの新製品が発売されるのだ。

「渋いのは分かっていますが、どうしても皆さんに紹介したくて」1月のマルイカ釣況はファンの方ならご存じのとおり。例年、開幕から1〜2カ月たつと一時的に釣果が落ちるのがマルイカの特徴。それでもこの時期にあえて釣行したのは、2022年版といえる新しいマルイカ竿をいち早くお披露目したかったからに違いない。持参したのは「デッキステージマルイカ」という新製品。

「がまかつには『シーファンクマルイカ』がありますが、追加発売されたこの竿をひとりで表すなら扱いやすさを重視したモデルとなります」この日は40号のオモリで水深70〜90メートルを狙うことになる。まずは2アイテムあるうちの155からスタートする。